

7 リすと ひまわり

はるの よく はれた 日ひに、  
いっぴきの リすが、もりの  
なかを はしって います。

「あれっ、こんな ところから  
めが でて いる。あなたは、  
いったい だあれ。」

「わすれちゃったの。わたしは、



ひまわりよ。リすくんが つちの なかに しまつて  
おいた たねが、めを だしたの。」

「あっ おもいだした。でも、  
ひよろひよろ して いるね。」

「お日さまの あたる ところに  
いけば いいよ。」



「でも、ここから うごけないの。」  
リすは、ひまわりの めを 木きの はこに うえかえ  
て、お日さまが あたる ところに、はこびました。

「ありがとう。あたたかいので げんきになつたわ。」

なんにちか して、りすが みに きました。  
「どうしたの、だいじょうぶ。」  
つちが からからです。

「みずが たりないんだ！」

りすは、かわから みずを くん で きて、かけました。

「ああ、きもちが いい。りすくん ありがとう。」

りすは、まいにち みずを やりに きました。

なんにちか すると、また、ひまわりが くるしそ

です。

「ひまわりさん どうしたの。」

「なんだか とっても きゆうくつなの。」

「あれえ、すきまから ねが おお でて いる。そうか、

ねが おお 大きく なって きたんだね。ぼくの いえの

にわに うえかえて あげるよ。」

ひまわりは、りすの いえの にわで ぐんぐん

のびて いきました。なつには 大きな はなが さき、

あきには、だいすきな たねを

いっぱい もらいました。



# 7 りすと ひまわり

3-1) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。(自然愛・動植物愛護)

## ①主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

現代の子どもたちは、生活形態が都市型になってきており、自然に親しむことが少なくなっている。地球全体の規模でみても、環境の悪化が懸念される昨今、自然や動植物を愛し自然環境を大切にしようとする態度は、ぜひ身に付けなければならない道徳的価値である。

そこで、低学年においては、子どももっている純真な心を大切にしながら、身近な自然の中で遊んだり、動植物の飼育栽培などをする事を通して交流を深めさせ、それらに対するやさしい心を育てていきたい。

〈子どもの実態について〉

この時期の子どもは、動物と遊ぶのが好きであり、植物を慈しむ心ももっているが、動植物に対する興味・関心は、一時的で長続きしないことが多い。動物や植物の立場になって世話をしたり、かわいがったりするという事は、まだ十分でない。そこで、これらの実態をふまえ、動植物に対するやさしい心を育てていきたい。

〈資料について〉

本資料は、りすが、元気のないひまわりの芽を工夫しながら一生懸命に育て、大きな花を咲かせるまでの姿を童話風に描いたものである。

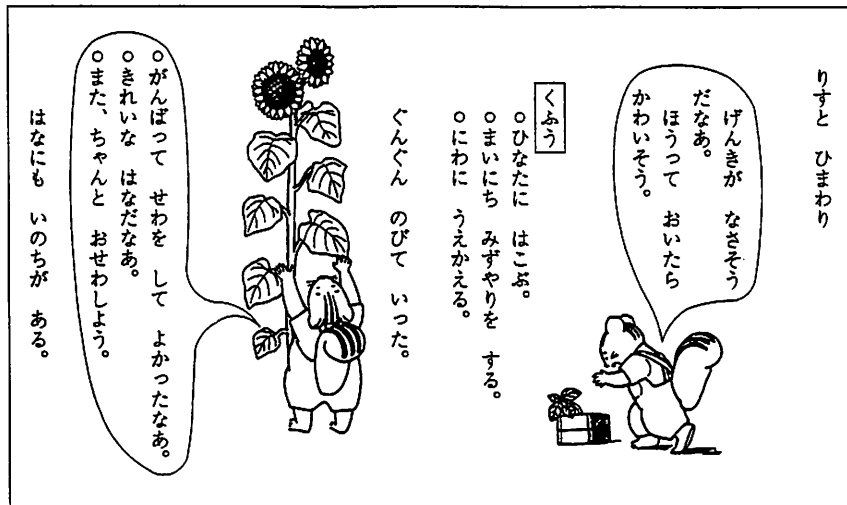
りすが、元気のないひまわりの様子を見たり、その願いを聞いたりして、ひまわりが何をしたいのかを察して育てていく姿を、共感的に追っていくことにより、ねらいに迫ることができる。

秋になりたくさんの種が取れ、りすやひまわりの喜ぶ姿が目にかぶるが、その姿を通して、植物を育てる苦労や喜びを感じ取らせるようにしたい。

また、りすのひまわりに対する言葉や行為、ひまわりとの思いやりあふれた会話を通して、りすとひまわりの温かい心のふれあいを感じとらせたい。

## ②ねらい

身近な自然や動植物を大切に、工夫しながら育てようとする気持ちを育てる。



□板書

## ③展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) 花を育てた経験について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今まで花を育てて、工夫したこと、困ったこと、うれしかったこと、悲しかったことがあれば発表してください。</li> <li>・ 水をやるのを忘れて枯れそうになったことがあった。</li> </ul> <p>(2) 資料「りすとひまわり」を眺んで、話し合う。</p> <p>① りすは、森の中でひょろひょろしたひまわりの芽を見てどう思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうしてこんなになったのだろう。</li> <li>・ ほか、種をうめたまま忘れて悪かったな。</li> <li>・ 早く元気に育てほしい。</li> <li>・ 放っておいたらひまわりがかわいそうだ。</li> </ul> <p>② りすは、どんな工夫をしてひまわりを育てていったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日かげから日なたに運んでいる。</li> <li>・ 毎日水やりをしている。</li> <li>・ 庭に植え替えている。</li> </ul> <p>③ りすは、なぜそんな工夫を思いついたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 元気のよい草や花はお日さまに当たっているから。</li> <li>・ 土がからからにかわいていたから。</li> <li>・ ひまわりがきゅうくつだと言ったから。</li> <li>・ 箱の中では、根があまり広がらないから。</li> </ul> <p>④ りすは、種をいっぱいもらったとき、どんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ がんばって世話をしてよかったなあ。</li> <li>・ もらった種は、大切に食べるよ。</li> <li>・ また、いくつかを土の中にうめておいて、今度は忘れないうちに大切に育てるよ。</li> </ul> <p>(3) 自分たちの生活を見つめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今、育てている植物に手紙を書く。</li> </ul> <p>(4) 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「チューリップ」「ひらいたひらいた」など花の歌を歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ねらいとする価値への方向づけをする。</li> <li>・ 最初に地面に出てきた芽を動作化したり、実物の芽や絵を見せたりして、芽の気持ちを実感できるようにする。</li> <li>・ りすのひまわりに対する言葉や行為を通して、それを支えている道徳的価値に目を向けられるようにする。</li> <li>・ りすとひまわりの温かい心のふれあいを感じ取ることができるようになる。</li> <li>・ りすが、思いつきで行動しているのではなく、よく観察したり問いかけたりして、それをもとにした的確な判断をしていることを押さえられるようにする。</li> <li>・ 一生懸命ひまわりを育てたりすの姿を共感的に追っていくことにより、ねらいに迫るようにする。</li> <li>・ 生活科で育てている朝顔へ手紙を書くことを通して、自分の体験と重ね合わせて、植物を育てる苦労や喜び、植物に対するやさしい思いを感じ取ることができるようになる。</li> <li>・ 花の気持ちになって楽しく歌うようにする。</li> </ul>